



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



歯学教育者ワークショップ開催される

教育委員長 井上 美津子



第14回昭和大学歯学教育者のためのワークショップが、平成21年7月29日から31日の2泊3日のスケジュールで三島の東総総合研修センターで開催されました。今回のワークショップでは、例年のようなディナーコースは設定せず、歯学部教授総会メンバーと臨床実習責任者を主体として「昭和大学歯学部における卒業時のコンピテンシー」をメインテーマにワークが行われました。これは、昨年のワークショップで「卒業の要件」が検討され臨床実習終了時のOSCE実施が決まったことや、本年1月に出席された「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の報告で、歯科医師として必要な臨床能力を確保するための方策として「臨床実習の到達目標の明確化」と「成績評価基準の明示の徹底」が求められたことなどを受けて、昭和大学歯学部卒業生の備えるべき能力を明文化し、そのための教育と評価を考えるというものです。歯科大学卒業時のコンピテンシーについては、アメリカ、ヨーロッパ、香港大学などのものが公表されていますが、今回はヨーロッパ(EU加盟国が共同で作成したもの)のものを参考にして昭和大学型を作成することがワークショップ運営委員会から提案されました。

4大学交流として北海道医療大学、岩手医科大学、福岡歯科大学から各1名の先生が参加し、それぞれの大学における技能・態度教育や臨床実習についての報告があり、またワークにも加わっていただきました。招待タスクである東京大学医学教育国際協力研究センターの大西弘高先生からは「コンピテンシーについて」の講義があり、アウトカムを見据えた教育の

必要性が話され、また医学部の教育推進室長の高木康先生からは「医学部における卒業の要件」を技能・態度を中心に概説していただきました。2日目の夕方には、日本歯科大学の仲谷寛・大澤銀子両先生から「コミュニケーションスキルとしてのコーチング」の講義と演習があり、小口理事長や細山田学長にも加わっていただき、大澤先生の穏やかな語り口にワークの疲れが癒されたひと時でした。

‘コンピテンシー’という今まで馴染みの少ない用語に対する捉え方の問題や、卒業時の臨床能力を保証するためのカリキュラムとモデルコアカリキュラムとの関係など、SGDでは様々に意見が分かれた所もありましたが、‘プロフェッショナリズム’に代表される「歯科医師として身につけるべき技能・態度」にもっと重点を置いた教育の必要性は再認識されたように思われます。最後に昭和大学歯学部卒業生のあるべき姿を各グループでまとめ、歯学教育のこれからの方向性を共有したところで、多少の宿題は残しつつも3日間のワークショップは幕を閉じました。準備・運営にあたったWS運営委員の皆様、教務部の皆様、ありがとうございました。



アジア大学ランキングに昭和大学がランクインしました 広報委員長 井上 富雄

イギリスの教育情報会社 Quacquarelli Symonds社から、2009年度版の「アジア大学ランキング」が発表されました。昭和大学は52位で、日本の大学の中では17位、私立大学では慶応大学、早稲田大学に次ぐ順位となっています。同ランキングは、2004年から毎年発表されている「世界大学ランキング」(2008年度の昭和大学の順位は359位)のアジア版となります。ちなみに2008年度世界大学ランキングでも、昭和大学は日本の私立大学の中で慶応大学、早稲田大学に次ぐ359位となっています。

平成21年度選択実習を終えて

歯学部6年 小田原 聖

6年生になって最初の二週間、中国の大連医科大学付属口腔病院で実習を行わせていただきました。



私が実習を希望した理由は「他国の歯科診療について見聞を深める」と「それをもとに日本の歯科診療について改めて考える」ことにあります。今回の実習で歯科診療自体は現在の世界では大きく異なったものではなく、国ごとの制度や国民の考え方が歯科治療における差にも繋がっていると実感しました。中国にも国民健康保険があり、安価で治療を受けることができます。さらには日本では自費となる金属床やインプラント治療も保険で受けることが可能になっています。一方、消毒食器やトレー等清潔用品はお金を払わなければならないなど無料で清潔が提供される日本とは違う面もあり驚きました。また実習を通して様々な方に歯科の事だけではなく、語学や文化等多くのことを教えていただきました。この実習は歯科医師となっていく私たちにとって視野が広がり、将来の糧となるものと実感しております。このような場を設けてくださった多くの先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

歯学教育者ワークショップに参加して

総合歯科 佐野 晴男

7月29日から2泊3日、三島の東レ研修センターでのワークショップ(第14回)に参加しました。歯学部のほぼ全ての教授をはじめ准教授、講師の50名以上が参加しました。「昭和大学歯学部卒業時のコンピテンシーについて一技能・態度を中心に」がテーマでした。コンピテンシーとは耳慣れない言葉で、適訳がありません。要するに本学歯学部の学生が卒業時点で掛け値無しに有しているべき能力や態度について討議したのです。

参加者は5グループに分かれ、資料に基づき討議を重ね、全体会議で結論をすりあわせる作業を繰り返しました。当初は焦点が定まらないかに見えたものが、最終日には具体的な方向性が見える程に煮詰まりました。皆がまさに寝食を共にして、知恵とエネルギーを絞ったのです。会場には体育館やプールもありましたが、使用する気もおきないほどの精神的疲労を覚えました。途中からは理事長、学長まで駆けつけ、

討論や懇親会に参加しました。教育に投資を惜しまない大学の熱意が分かり、医系総合大学として日本一を目指すという言葉が、決して大風呂敷ではないと実感しました。

他大学の友人に尋ねましたが、このような熱気にあふれたワークショップはなさそうでした。中には半日の座禅修行のみという大学もありました。本学に赴任して4ヶ月、昭和の一員に加えていただいてよかったですと心から感じられる三日間でした。

結びに読者にお願ひです。将来に希望をもって学んでいる歯学部学生達に、「これからの歯科は大変だ」とマイナスの愚痴をこぼすのはどうか止めて下さい。自分の生業が大好きですし、修練と技術と接し方次第でまだまだ伸び代があり、やり甲斐を感じる仕事だと思っているからです。



医学教育者ワークショップに参加して

高齢者歯科学教室 佐藤 裕二

7月27日から29日にかけて、厚木のアンリツ研修センターで行われた昭和大学医学教育者ワークショップに参加しました。本ワークショップへは、8年前に赴任以来、最初はビギナーズコース、翌年からはタスクとして1回抜けただけで毎回参加させていただきました。



今回は、4学部の混成チームのアドバンスト・コースで、大学院共通カリキュラムの骨組みを作り、既存の科目の単位互換とは別に、「医系総合科学の研究と倫理(全研究科必須)」という科目が提案されました。今回のプロダクトは、今後のたたき台となることを祈っています。久々に刺激的なワークショップを一般参加者として楽しめました。

歯学部からは、ビギナーズに佐野教授、タスクとして井上教育委員長、片岡教育推進室長も参加されました。綿密な準備・運営に当たられたタスクと教務部の皆様、参加の機会を与えてくださいました教授会の方々にこの場をかりて感謝申し上げます。

ただ、25、26日に産業歯科医講習を受講し、29日から31日にかけて、引きつづき三島での歯学教育者のためのワークショップに参加させていただいたので、さすがの私も充実感で超満腹です。

富士吉田教育部教育ワークショップに参加して

歯科薬理学教室 山田 庄司

富士吉田教育部のすべての専任教員と各学部からの兼任教員を対象とした、第3回昭和大学富士吉田教育部教育ワークショップが厚木のアンリツ研修センターで7月21日(火)から2泊3日で行われました。ワークショップは参加者26名(内、1名欠席)が4つのアドバンス・グループ[A:初年時選択科目のあり方について、B:総合理科(仮称)教育のカリキュラム・プランニング、C:教員評価のガイドライン、D:オリエンテーションプログラム]に分かれ、教育部におけるより良い教育を実現するために活発な討論が行われました。富士吉田教育部における教育ワークショップの歴史は浅く、今回で3回目ではありますが、過去2回のワークショップで専任教員のほぼ全員が参加していたため、アドバンス・コースだけのワークショップになりました。今年度は、カリキュラム・プランニングの基本を学ぶベーシック・コースが行われるのは医学部のワークショップだけになってしまいました。今後は大学全体で、教育部や各学部の新人教員を対象とした教育ワークショップの場を確保することが必要だと思いました。今回のワークショップでは、各グループともに、最終的な結論までは至らなかったものの、かなりの進展を見ることができました。また2日目は日本国内で46年ぶりに見られる皆既日食の日に当たり、セッションを中断して中庭から観察しました。幸いなことに厚木では分厚い雲を通して、欠けてゆく太陽を見ることができました。日食の観察という幸運なイベントに加えて、学長や理事長を交えた懇親会などを通して、教育部の専任教員や学部兼任教員の親睦が深まったことは、今後の教育部教育改革に於いて有意義でした。



Ulm 大学矯正歯科主催「医用生体工学における有限要素解析ワークショップ」に参加して

歯科矯正学教室 高橋 満理子

ドイツの森は、暖かい活気に満ちていました。

7月15/16日、Stuttgart から Inter City Express で1時間ほどの所にある Ulm という町に行ってきました。そこには、ドイツで一番小さな大学というUlm 大学

があり、その矯正科主催のワークショップに参加するためです。参加者の殆どはエンジニアで、出会った中で矯正医は2人。これには驚きましたが、話を聞いて納得。なんと、ドイツの矯正科や整形外科には、歯科医師以外に常勤の工学者が何名も在籍し、臨床研究の為に計測装置の考案、製作を任されていたのです。充実した医学と工学の連携をとっても新鮮に感じました。

発表の題材は、顎顔面・椎骨・膝関節・大腿骨頭頸部等で、内容は技術色が濃く、参加者の指摘は鋭いものでしたが、大学も立場も背景も、世代も異なる研究者が自由闊達に論議する姿は、さすが骨太なドイツ人。研究に対する真摯な姿勢を感じた貴重な経験でした。

実は、1日目に体調を崩してしまい、ビールはおろか宮殿も、メルセデス博物館も、バウハウス建築も見ること叶いませんでした。しかし、ドイツ人の温かい人柄に触れることができ、これもまた良い経験となりました。



受賞のお知らせ

広報委員長 井上 富雄

佐藤 有加(歯科補綴学教室 助教(員外)):7月25、26日に開催された「第22回日本顎関節学会総会・学術大会」におきまして、「口腔関連 QOL を指標とした顎関節症患者の治療効果についての前向き研究」という演題で「ポスター発表優秀賞」を受賞されました。



診療統計(平成21年7月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	19,681	757.0	742.5	713.6
入院患者	410	13.2	14.3	11.7

4学部合同オープンキャンパス開催

入試常任委員 五十嵐 武

去る7月24日(金)の午後1時から旗の台キャンパスの上條講堂で4学部合同オープンキャンパスが開催されました。参加者は合計466名で、このうち79名が歯学部志望の参加者でした。開会に先立ち富士吉田キャンパス紹介ビデオが上映され、1時からの全体説明会では、「昭和大学の特徴とチーム医療への取組み」についての説明が行われました。つづいて、在校生からのメッセージと題して、医・歯・薬学部の2年生が「富士吉田キャンパスでの思い出」について各自の体験談を語ってくれ、参加者は興味深そうに聴き入っていました。その後、休憩をはさみ、模擬講義(命の講座～死をとおして生命の大切さを学ぶ～)、AED実技演習、シンポジウム(途上国との共生)など医系総合大学ならではの催しが用意されました。

また、午後2時から、4号館で各学部の個別相談、在校生とのフリートーク、学部紹介ビデオの上映などが並行して行われ、歯学部のブースにも多くの学生が質問・相談に訪れました。



海外研究生紹介

歯科放射線学教室 金 奎兌 (Kim Gyu-tae)

韓国から来ました金奎兌と申します。韓国では慶熙大学の歯科病院で fellow として勤務していました。このたび、招聘研究者として、2008年9月1日から1年間、歯科放射線でお世話になりました。当初は外来の見学を中心に、まず口腔リハビリテーション科の摂食障害の検査の方法であるVF検査の見学を行いました。今、韓国も老年人口が増えております。日本は世界最長寿国家ですが、韓国も日本と同じ最高



齢国家になってきています。摂食障害の苦しみを抱えている人の為に、なにか役立つことができるように戻って勉強していきたいと思いました。

ここはCTとCBCTがあるので、研究には良い環境だと思いました。昭和大学の歯学部には独立したCT装置がありますが韓国にはありません。羨ましい点の一つでした。私の研究はCTを利用したbone densityの研究です。初めるのが遅かったため、まだ結果が出ていませんが、ここで終る研究ではなく、韓国へ帰っても共同研究し続けられるものが欲しいです。

また、岡野病院長の配慮で岡山大学の歯科放射線科を見学する機会がありました。研究テーマの一つがfMRIを利用した物でした。VFはX-rayを使った画像技法ですが、MRIは水素を用いた画像技法ですから安全だとは思いますが、まだ実用的ではありません。

来る前は、1年は少し長いのではないかと思いましたが、実際には短かったです。

このような機会を与えて下さった院長の岡野先生と歯学部長の宮崎先生に感謝します。そして今までさまざまな面倒を見てもらった放射線科の先生方、技師さんたち、co-dental Staffにも感謝します。1年間本当にありがとうございました。

セタ・ライトダウン 広報委員長 井上 富雄

政府は、7月7日を地球を冷ます日、クールアース・デーと定め、施設や事業所、家庭などで一斉に電気を消す「セタライトダウン」を呼びかけて、地球温暖化防止に向けた取り組みを実施しています。本学でも、業務に支障の無い範囲で20時から22時の間消灯を行い、クール・アースデーに協力しました。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 9月 5日(土) : 歯科病院臨床研修歯科医師採用試験
- 9月13日(日) : 歯学部オープンキャンパス
- 9月26日(土) : 富士吉田父兄会
- 10月 9日-11日 : 旗が岡祭・いぶき祭
- 10月17日(土) : 富士吉田父兄会
- 10月20日(火) : 解剖慰霊祭
- 10月24日(土) : 父兄会秋期部会
- 10月27日(火) : 臨床研修マッチング結果発表

編集後記

歯科放射線学教室 松田 幸子

今年は雨が多く、湿度の高い夏でしたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。忙しい合間を縫って原稿を作成していただいた先生方にはいつも感謝しております。